

5万分の1地質図幅「美濃」

脇田浩二¹⁾

名古屋から北に向かって、50 km 位行くと、木曾三川によって形作られた濃尾平野が終わり、小高い丘がちらほら見えてくる。このあたりが美濃地方だ。織田信長が居城にした岐阜城はそんな丘の一つに立っている。5万分の1地質図幅「美濃」に描かれている地域は、美濃地方の中でも岐阜城から北東に10数 km 行った美濃市周辺である。

平野の縁に近い割に小高い丘が多いのは、チャートというとても固い岩石が、雨や風で風化されずにそびえ立っているからだ。チャートの崖を登るのはとても大変で、真夏などはへとへとになる。このチャートは、たいてい三畳紀の岩石で、放散虫というプランクトンの化石の殻からできている。この殻が珪酸でできているため、チャートは珪酸に富み、ガラスなどの原料になる。地質図では、オレンジ色に塗られているこのチャート、この地域では結構沢山見つかっている。

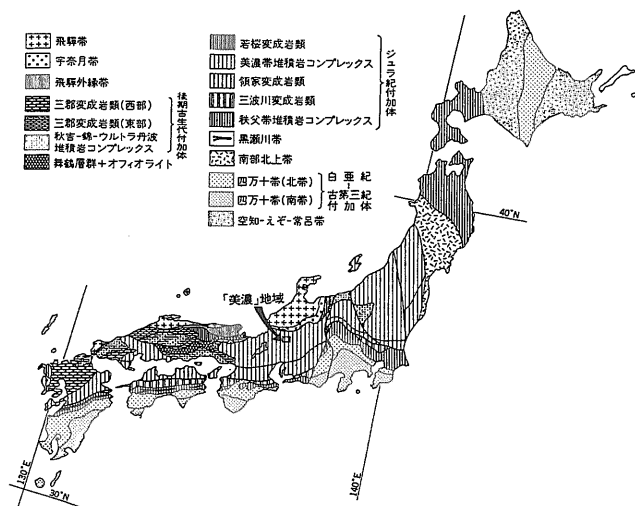
石灰岩。こいつは、セメントの原料になるうえ、ちょっと熱で変成していたりすると大理石として石材にもなるという優れもの。これは、地質図では青色に塗られていて、美濃図幅の北東角にまとまって分布している。二畳紀のフズリナを含んでいるので、さっきのチャートよりやや古くさい奴なんだ。

その他、いろいろな岩石が出ているけど、みんなまとめて泥岩(茶色系の色で塗られている)の中に含まれている。メランジ。専門家はこう呼んでいるけど、本当のところ何者か分かっていない怪人20面相みみたいな奴さ。だけど、ぼくはこいつが大好きだ。

地質図の北の方には、肌色やピンク色で塗られているところがある。これは、奥美濃酸性岩類なんていうリトマス試験紙を真っ赤にしちまうような岩石だ。こいつは、白亜紀の終わり、恐竜も息も絶え絶えという頃に、どっかあーんと火山が噴火してでき

時代	層序	地史
新生代	第四紀 沖積層 現河床堆積物 崖線及び小扇状地堆積物 段丘堆積物	濃尾活断層系の活動
	第三紀 蜂屋系層	岩脈(安山岩)
中生代	白亜紀 奥美濃酸性岩類	珪長質火成活動 大規模火砕流の噴出 及び花崗斑岩類の貫入
	ジュラ紀 美濃帯堆積岩 コンプレックス	断層による繰り返しやメランジの形成及び 砂岩・泥岩・珪質泥岩の堆積及び付加
古生代	三畳紀	チャートの堆積
	二畳紀	玄武岩・石灰岩の形成

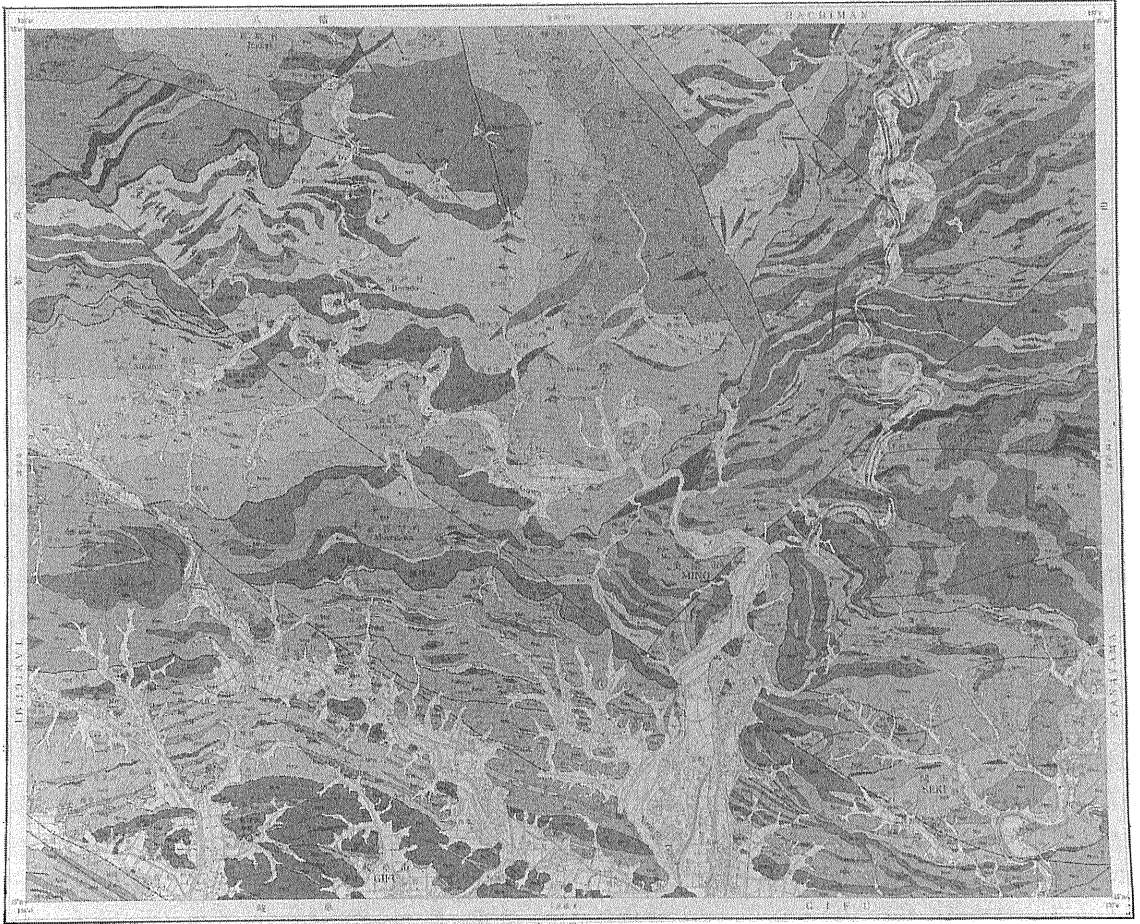
第1図 美濃地域の地質



第2図 日本の地帯構造図

1) 地質調査所 国際協力室

キーワード: 5万分の1地質図幅, 美濃, 美濃帯, 堆積岩コンプレックス, チャート, メランジ, 奥美濃酸性岩類



第3図 5万分の1地質図幅「美濃」

た石で、石英なんかがあるところと入っている。高いお山は、長い年月の間に削り取られて、火山の中の熱いマグマも冷えて固まり、花崗岩として地表に出ている。

つい最近100万年前ぐらい、なんて言い方は、地質を調べている変なおじさんたちの口癖だ。このころになると、もう美濃地方は、今とあまり変わりのない風景だったろう。長良川はときどき氾濫して、土砂をまき散らしたりして、どんどん平野を増やしていった。美濃の町並みは、そんな土砂の上でできているんだ。

明治時代になると、美濃地方では濃尾大震災というのが起きた。これは、とてつもなく大きな地震で、すぐ西側の根尾地方では、地面がぶすっときれ

ずれてしまった。断層というのだけど、神戸の地震の時に、淡路島で出来たよね。これと同じ様な断層ができて、その続きが、美濃地方の南西部にも延びて居るんだ。このとき断層で地面が盛り上がって、川をせき止めたためにその一帯が水浸しになったんだって。大変だったろうなあ。

「美濃」の地質図には、こんな話が描いてあるんだけど、地質をやってる変なおじさん・おばさんじゃないと、分かりにくいと思うんだ。でも、きれいな絵だと思って、君の家にも飾っておいてくれないかな？ 一枚でもたくさん売れると、おじさんうれしいな。分からないことがあったら、いつでも聞いてください。詳しく教えてあげます。きみにだけ…